

## 第一節 災害と防災

### 主な災害

〔平成元年・台風一七号〕

平成元年（一九八九）年八月二十五日に沖縄近海で発生した台風一七号は二十七日午前九時頃、高知県室戸市付近に上陸した。高知市では二十七日の降水量が一六二・五ミ、室戸岬では最大瞬間風速四三・九ミを記録した。野市町は幸いにも被害がなかったが、この台風が通り過ぎて間もない八月三十日早朝、集中豪雨に見舞われた。台風通過直後の豪雨であったために、高知県下で多くの被害が発生。特に芸西村付近では高知気象台のアメダス観測史上初となる一時間降水量一一四ミを記録した。野市町では、午前八時までの三時間に一二五ミという猛烈な雨になり、香宗川改修以来一〇年ぶりに中ノ村の下地地区で道路冠水や床下浸水（一五戸）、土居の川端地区では道路や田畑の冠水、東佐古地区では町道のがけ崩れなどの被害が発生した。

〔平成十年・高知豪雨〕

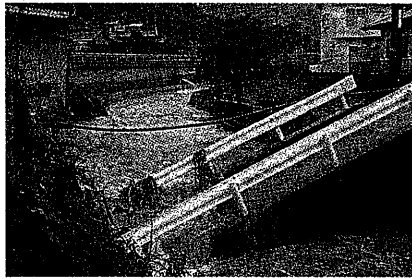
平成十年九月二十四日から二十五日にかけて停滞した秋雨前線に向けて暖湿気流が流れ込んだため、県中部で長時間にわたって激しい雨が降り続き、高知市では日最大一時間降水量一二九・五ミ、日降水量六二八・五ミ、月最大二四時間降水量八六一・〇ミと、いずれも観測開始以来の記録を更新した。野市町でも雷を伴っ

て激しく降り続き、期間降水量（二十四日午前九時～二十五日午前九時）が六〇〇ミを超える記録的な大雨となった。これは、当町の九月の降水量平均値の約二・二倍が一日で降った計算になる。

二十五日午前一時十五分、町は災害対策本部を設置、情報収集に努めるとともに、消防団、香南消防署、町職員が総出で住民の避難誘導に当たった。消防団は町内全分団が出勤し、被災者の救出、警戒のための町内巡回、土嚢積みなどに奔走した。同日、避難勧告が出され、富家・大谷地区では近くの公民館などに一〇人以上が避難し、団地の裏山が崩れた白岩団地では二七世帯九一人が青少年センターへ避難した。

町内の被害は、住宅半壊一棟、一部破損三棟、床上浸水八六棟、床下浸水二八六棟、がけ崩れ五か所、橋の崩壊一か所、烏川など町内河川堤防破損二〇か所、田畑の冠水二三〇・七畝、その他至る所で水道管破損や道路冠水が発生、農作物被害は約二億一三〇〇万円にのぼった。

野市町は、高知市や南国市、土佐山田町とともに災害救助法の適用を受けた。同法の適用は昭和四十七（一九七二）年五月の繁藤豪雨以来のこととなった。災害復旧事業に係る国の査定は農林関係三九か所で九七六〇万円、公共土木関係一一か所で二億三一四〇万円となり、査定終了後直ちに早期全面復旧工事が開始された。



高知豪雨の被害。東佐古で橋が崩壊（写真上）、白岩団地でがけ崩れ

国の基準に合わない小規模災害については町独自の制度を創設し、被災地区の改良区・田役・水利組合に対し復旧のための補助を実施した。県から配分を受けた被災者への義援金は、町が設置した配分委員会での審議を経て、県からの配分に町が上乘せして被災者に支給された。

〈平成十六年・台風二三号〉

平成十六年十月十三日に発生した台風二三号は、二十日午後一時頃、大型で強い勢力のまま高知県土佐清水市付近に上陸した後、午後三時過ぎに室戸市付近へ再上陸した。この年、高知県へ上陸した五回目の台風であった。野市町には二十日午後二時頃に最接近し、町役場の雨量計は午後二時三十分までの一時間降水量五四・五ミを記録した。香宗川は午後一時四十分、物部川は午後二時五十分警戒水位を超え、町ふれあい広場野球場は濁流の川と化した。中ノ村・土居地区で床上浸水四棟、床下浸水一三棟、東佐古地区と東野の一部で土砂崩れなどの被害が発生した。